

平成 25 年度動物慰霊式

科学分析支援センター 畠山 晋

平成 25 年度埼玉大学実験動物慰霊式が 10 月 22 日(火)14 時 40 分から理学部 2 号館第一会議室において開催されました。主催は埼玉大学、そして科学分析支援センターが動物飼育室式の次第を取り仕切りました。実習や、卒業研究、そして研究の目的で実験動物を使用している方々、総合研究機構に属する教職員、そして動物の御霊に感謝し安らかな眠りを祈りたいという方々、合わせて 132 名の参加者がありました。

式は、畠山晋講師(科学分析支援センター、埼玉大学動物実験委員会委員)の司会により進められました。小林哲也教授(埼玉大学動物実験委員会委員長)による開式のことばに続いて、坂井貴文教授(理学部長)のあいさつがありました。動物実験は常に適正に行なわれるべきであり、常に 3R の原則を頭に入れ、命ある動物を用いていることを強く意識するべきであると述べられました。続いて動物飼育室の利用者を代表して中井淳一教授(脳科学融合研究センター)より慰霊のことばが捧げられました。今日の生物学、生命科学の進歩は、多くの実験動物の犠牲の上に成し遂げられたものであることを心に刻み、得られた貴重な情報を、社会に発表、優秀な人材を育て社会に還元するように努めるのが、我々の責務であると述べ、改めて動物の御霊に感謝と敬意を示しました。次に参加者全員によって花が手向けられ、黙祷することによって、実験動物の御霊に対する深い感謝と安らかな眠りを祈りました。最後に小林秀彦・科学分析支援センター長のことばによって式が閉じられました。実験動物を扱っている教職員・学生は、動物実験を行なうときには、いつでも動物に対する尊敬の気持ちを忘れることのないように、そして、最大の効果を上げられるように、かつ適切な実験を遂行できるように絶えず配慮することが必要であると思います。

動物慰霊式への出席者は年々増加しています。それは、動物愛護の考え方の浸透と実験動物の範疇の拡大によるものであると考えられます。今後も世界および日本の動向を注視しつつ、本学における動物実験が適切に行われるように、施設の維持に努めて参りたいと改めて感じました。

